

視点

「病気になる」と安静ノ」とときに好きなものを食べられ
いう信仰が強いですね。でも、るのが社会の常識でしょう。
安静は筋力だけでなく、心肺 ところで、ある認知症のグルー
機能の低下も引き起こしま
す。

医学の世界では、これまで
「常識」と思っていたことが
「非常識」になるぞんでん返
しがしばしばあります。例え
ば、風邪をひいて熱が出たら
解熱剤で下げるのが西洋医学
の常識でしたが、むしろ熱を
出し切った方が、解熱剤を使
うより早く治るといわれるよ
うになっていきます。つまり、
体温が高いと免疫力が高ま
り、体内に侵入した細菌やウ
イルスを攻撃する力が高まる
のです。このような話題も、
さつに歴史を振り返ると、お
もしろい出来事があります。

百年前、認知症の最大の原因は脳の梅毒でした。しかも
脳の梅毒は治療法がなく、死
が待っていました。オースト
リアの医師ユリウス・ワグ
ナー＝ヤウレックは、この脳
梅毒患者に三日熱マラリアを
感染させました。すると三日
間高熱が続く、脳の梅毒スピ
ロヘータが死んで症状が軽快
するのです(その後マラリア
をキニーネで治療)。彼は、
この発見でノーベル賞を受賞
しました。

「病院の常識は社会の非常
識」と言えることが多々あり
ます。入院すると、好きな時
間に好きな食事を食べられま
せん。ましてや福祉施設に入
所すると、決められたメニュ
ーをずっと食べ続けなければ
なりません。

群馬大医学部教授

やす 晴保
はる やす
やまぐち 山口

前橋市下新田町



社会では「非常識」にも

なりません。入
動に参加して能力を發揮する
所したのだから
からです。和田行男氏はこの
我慢するという
体験を『大逆転の痴呆ケア』
のが常識です。
という本に記し、「人間のあ
るべき姿を奪うな」と強調
しています。

世の中、どんどん便利にな
っていきます。そのぶん頭を
使わないで生活ができるよう
になりました。トイレに入る
と自動的に点灯・消灯、水洗
も消臭も手洗いもセンサーが
働き、人間の注意力が不要で
す。炊事も洗濯も全自動でボ
タンを押すだけ。このような
生活環境は、生活能力(脳力)
を奪います。

公共の場にはバリアフリー
が求められますが、人間はバ
リアーを乗り越えることで能
力を維持・向上させていると
いう側面があります。

例えば階段を上ると、重力
に抗した運動なので、たくさ
んの筋力を使います。すると
姿勢を支える抗重力筋が強
なり、同時に身体を支える骨
格も丈夫になっていきます。
エレベーターは楽ですが、毎
日薬をしていると立位歩行に
大切な抗重力筋が弱くなり、
骨も脆くなっています。最
近はエレベーターが正面にあ
って、二階に上がるにもエレ
ベーターを使うのを見かけま
す。階段のような天然筋トレ
マシンの正面に設置すべき
と考えるのは、非常識でしょ
うか? バリアフリー(有)
生活」のススメです。人間の
あるべき姿を奪ってはいけな
いのです。なんでもちよつと
非常識に考えてみましょう。

【略歴】高崎市出身。群
馬大医学部卒、同大学院
修了。医学博士。日本認知
症学会理事、県リハビリテ
ーション協議会委員長。認
知症に関する著書もある。

オピニオン21

雷神でも見られます。アドレスは <http://www.raijin.com>

病院の「常識」